



インクルーシブ保育推進と包括的性教育で 「第20回キッズデザイン賞」をW受賞 ～全ての子どもが自分と他者を大切にできる社会へ～

社会福祉法人どろんこ会（本社：東京都渋谷区、理事長：安永愛香）は、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する「第20回キッズデザイン賞」において、「出産・子育て支援部門」および「安全・安心向上部門」の2部門で受賞したことをお知らせいたします。

このたびの受賞では、障害の有無にかかわらず全ての子どもが共に育ち合うために、**官民連携で施設および地域でのインクルージョンを推進**する東京都東大和市での先進的な取り組みと、当法人が**20年以上にわたり保育園で実践・普及啓発**を続けてきた「からだと命の大切さを学ぶ」性教育が評価されました。

受賞内容

- 官民でインクルージョンを推進
保育園併設の子ども発達支援センターつむぎ 東大和



部門	出産・子育て支援部門
カテゴリー	F-コミュニケーション（子ども向け） F15.インクルーシブ教育・性教育

障害の有無にかかわらず、**全ての子どもが共に育つインクルージョンの推進**を官民連携で実践。施設間の物理的・心理的な壁をなくした「真のインクルーシブ空間」を実現し、その**実践知を地域に還元**しています。

キッズデザイン賞とは

キッズデザイン賞は、以下の目的を満たす製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会へ発信するために2007年に創設されました。

- 子どもたちが安全・安心に日々を暮らせる
- 子どもたちが感性や創造性豊かに育つ
- 子ども自らが次の社会づくりに参画する
- 誰もが当事者として子育てに参加する

子ども用にデザインされたものはもちろん、大人や一般向けに開発されたものであっても、子どもや子育てに配慮されたデザインであればすべてが対象となります。

- 2003年から取り組む保育園での「からだと命の大切さを学ぶ」性教育と普及啓発活動



部門	安全・安心向上部門
カテゴリー	F-コミュニケーション（子ども向け） F15.インクルーシブ教育・性教育

20年以上にわたり保育園での**包括的性教育**を継続。自分と周りの人の「からだと命」を大切にするための**五感体験型**アプローチを全国へ展開するほか、**普及啓発活動**に力を入れています。

■第20回キッズデザイン賞

主 催：特定非営利活動法人キッズデザイン協議会
後 援：経済産業省、内閣府、消費者庁、こども家庭庁、東京都

表彰部門：
 ▶ 子どもの参加・参画部門
 ▶ 感性・創造性育成部門
 ▶ 安全・安心向上部門
 ▶ 出産・子育て支援部門

官民でインクルージョンを推進 保育園併設の子ども発達支援センターつむぎ 東大和



■取り組みの概要

「つむぎ 東大和」は、東京都初となる認可保育園を併設した児童発達支援センターです。最大の特徴は、施設間の物理的・心理的な壁をなくした空間設計と、スタッフ同士も混ざり合う運営にあります。

園児とセンター利用児が日常的に共に過ごし、双方のスタッフも専門性を生かして一体的な支援・保育を提供。そのノウハウは保育所等訪問支援事業などを通じて地域の保育園等へ還元され、地域全体のインクルージョンを推進する中核拠点の役割を果たしています。



■課題の着眼点とアプローチ

障害の有無で育つ場を分けてきた日本の支援体制に問題意識を持ち、「分ける支援からの脱却」に取り組みました。単なる「同じ場所で育つ」形だけのインクルージョンではなく、スタッフ同士も混ざり合い、全ての子どもが共に育ち合うための連携体制を確立。結果としてスタッフは集団・個別支援双方のスキルを習得し、支援・保育の質が向上しました。この取り組みは、幼少期から違いを認め合う共生社会の土台作りに寄与するものとして社会的意義も高く、現在では真のインクルージョン推進モデルとして、全国の自治体や海外からも視察が相次いでいます。

2003年から取り組む保育園での「からだと命の大切さを学ぶ」性教育と普及啓発活動



■取り組みの概要

「からだと命の大切さを知り、自分も他者も大切にできる人へ」との願いから、2003年に『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』に先駆け、「命の誕生」にまで踏み込んだ包括的性教育プログラムを独自開発しました。以来実践マニュアルを整備し、グループ全施設の5歳児を対象に毎年実施しています。

さらに、全ての子どもが性教育を受けられる社会を目指し、2019年より普及啓発を本格化。自治体研修や大学講義、こども家庭庁との対談セミナーなど幅広く展開し、幼児期の性教育文化を全国へ広げる取り組みを牽引しています。



■課題の着眼点とアプローチ

2003年に園内で起きた事案を機に、子どもの「からだ」や性への素朴な疑問に応えられていなかった根本課題に着目。当時は皆無だった体系的なプログラムを開発し、人体パズルや絵本、胎児人形を用いて、男女のからだの違いからプライベートゾーン、命の誕生までを直感的に伝える手法を確立しました。

さらに、深刻化する子どもの性被害に対しグループ内だけの教育に限界を感じたことから、意識調査の実施や多方面での講演・講座を通じた社会啓発を開始。メディア取材も増え、社会全体の意識変革と普及啓発を加速させています。

どろんこ会グループについて

- 理念：「にんげん力。育てます。」
- 事業内容：保育事業、児童発達支援事業、就労支援事業、農業、研修事業、旅行事業 ほか
- グループ内法人：社会福祉法人どろんこ会、株式会社日本福祉総合研究所、社会福祉法人愛育会（理事長 代表取締役 安永愛香）
株式会社ゴーエスト、株式会社南魚沼生産組合、株式会社Doronko Agri（代表取締役 高堀雄一郎）
- 施設数：約200施設 ●職員数：約3,000人 ●利用者数：約10,900人（以上2026年5月現在）
- HP：<https://www.doronko.jp>

Doronko

【本リリースに関するお問い合わせ】

どろんこ会グループ（東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR 渋谷ビル13F）

広報部 小出 TEL：03-5766-8059 Email：koho@doronko.jp